

刈谷市議会議員 伊藤よしえ による刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.7
2025年3月議会号

女子更衣室

活動報告

みんなの声が、カタチに

令和7年3月議会 質問質疑

特集！子育て・教育施策

地元産業の発展
ヤングケアラー

刈谷放課後子育てMaaSプロジェクト
子ども・若者の声

ICT化推進

写真：
カワレルActionCollege 避難所生活体験イベントにて

教育は、地元産業の発展にもつながる

「生まれ育ったまちで働く」と聞くと、どのような感覚を持ちますか？お子さんやお孫さんがいる方は、喜ばしく感じるかもしれませんし、世界での活躍を夢見る子たちからすると、ピンとこないかもしれません。刈谷の地で事業活動をさせていただいている会社に所属する者としては、地元に着用を持って育った方が、地元で働いてくれるのはありがたいと感じます。昨今製造業もその他の産業も人手不足で、産業の魅力向上に取り組んでいるところですので、思いはますます強くなるばかりです。

市も同様の認識であり、産業振興や学校教育の視点で、様々な施策を実施しています。市内企業の魅力を知ってもらうことや、就労観・職業観の育成を目的としたアウトオブキツザニア、職業体験などがあり、参加した子どもからも事業者からも好評だったとのこと。

これらの施策が、実際の仕事選びにどれ程インパクトを与えるかを見極めるのは難しいですが、自分たちの住む地域に対する理解や愛着、子どもの成長や自立、産業振興や地域振興など、幅広く大きな効果を生む可能性があると考えます。市の持続的発展への先行投資とも言えるでしょう。市からは、今後も次世代の産業を担う人材の育成を図るための体験型プログラムや、地元企業と連携した体験学習を実施していくとの答弁をいただきました。今後の取り組みにも是非ご注目ください。

ヤングケアラー、まずは実態把握を

ヤングケアラーという言葉が知られるようになってきました。本来大人が担う家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもや若者のことを指します。「かわいそうな存在」を意味するものではありませんが、勉強や友人との時間など、かけがえない経験を犠牲にしている場合もあり、適切な支援が必要とされています。「刈谷市こども計画」を策定するにあたり、令和六年に実施したアンケートでは、「家族の中に自分がお世話をしている人がいるか」との設問に対し、小学五年生で十八、八パーセント、中学二年生で五、八パーセントが「いる」と答えています。「お世話をしていることでできていないことがあ

る」と答えた子どもの人数は、小学五年生で七十四人、中学二年生で三十四人となっています。また、できないことの中身として、睡眠が十分に取れない、宿題や勉強をする時間が取れないと答えている子どもの割合が多く、憂慮しています。

市は現在、例えば不登校や遅刻について学校等から相談が上がることなどを発端としてヤングケアラーを発見し、家庭児童相談の中で養育環境の改善や子育て支援サービスにつなぐといった取り組みをしています。ヤングケアラーへの適切な支援の第一歩は、実態把握です。今回の質問質疑を通して、実態調査や支援体制づくりの必要性和、さらなる取り組みの推進について、市と認識合わせをすることができました。

放課後子育てMaasプロの行方

これまでも何度かオレンジプレスでお伝えしてきた、「刈谷放課後子育てMaasプロジェクト」について、令和六年度の実証実験結果と成果、今後の展望を問いました。

このプロジェクトは、学校からの移動、質の高い教育プログラム、習い事先や自宅への移動の一括予約を可能とし、AIによる最適経路、最適な乗り合わせで、子どもの習い事をサポートするものです。平日に子どもを習い事に送迎することが難しい共働き世帯からのニーズが高いサービスとなっています。

小学三年生の友達D君は、「プログラミング教室がすごく楽しくて、宿題を出して欲しいくらい！」と言っていました。保護者、送迎を担うタクシー事業者や、今年度新たな取り組みとして企業プログラムを提供していただいた地元企業からも好評であったことを確認しました。

来年度は二年間の実証実験の結果を受け、市内企業や習い事の事業者などが連携した事業スタートが可能か、関係企業との協議や連携を進めていくとの答弁を得ました。実証実験では、国の補助金なども出ていましたので、今後は利用料金なども課題になると考えます。こうした付加価値が高く先進的な教育施策の導入について、今後も積極的に働きかけたいと思います。

特集！子育て・教育施策

当事者の声を聴こうよ

当然と言えば当然ですが、子育て・教育に関する制度をつくるのは大人です。大人の誰もが子どもだった経験はありますが、私たちと現代の子どもとは、環境も価値観も大きく異なる時代に生きています。私たちの価値観や経験を前提とした、「子どもだったらこう思うだろう」という感覚は、ズレていると考えた方が自然かもしれません。当事者の声を聴き、諸制度を構築すべきとの考えのもと、本議会で質問質疑を行いました。

嬉しかったのは、新たな「刈谷市子ども計画」が、市の職員方が実際に中学校に足を運び、ブレインストーミングやグループ発表などを取り入れたヒアリングを経て策定されたことです。実際にヒアリングに出向いた若手職員に聞きましたが、子どもたちは想像以上に積極的に、「ハイ！ハイ！」と挙手し、意見を言ってくれたそうです。子どもの頃から自分の住むまちについて学んだり、「社会」というものに関して自分の意見を表明する機会を持つことは、大変有意義だと考えます。

一方で、子ども・若者が社会参画にハードルを感じているという問題も、ヒアリングやアンケートを通じて見えてきました。これに対しては、参画しやすい雰囲気づくりをしていくことや、参画することでもまちが住みやすくなり、自分たちの生活が豊かになるという本質的なメリットを理解してもらえるように、長期的な視点で取り組んでいくとの考えが示されました。

ここで少々、社会参画に関する私の思いを述べさせていただきます。特に社会参画に関心や縁の薄い子ども、若者の声を聴くということに関しては、フィードバックを大切にすべきだと思います。「言ったら変わった」経験や、「言ったら変わるかもしれない」という感覚は、何より社会参画の動機付けになります。そして、「言っても自分の考え通りにはならない場合もある」という経験もまた、重要ではないでしょうか。社会は、様々なバックグラウンドや価値観を持つ人たちの集合体であり、意見を出し合って、利害を調整して、ルールなどが決まっていくのですから。「自分が暮らすまち」という最も身近なところで、社会参画の経験を積みながら大人になっていくことができますという機会を、様々なシーンでつくりたいと思っています。

ICT化、さらなる拡大を目指して

子育て中の保護者の方からいただく要望のトップと言っても過言ではない、子育て・教育現場でのICT化推進。これまでも何度か議会に取り上げて参りました。おかげさまで新たに実現が見えたものもあります！（裏表紙で紹介しています。）まだアナログでやり取りしているものも残っていますので、さらなるICT化推進を要望しています。

市も、母子手帳の交付手続きや出産子育て応援給付金の申請などでの導入実績から、二十代・三十代の子育て世代は想定以上にICT化に抵抗がないことが分かったため、業務の効率化や利便性向上等の効果などについて、積極的に調査・研究をしていく、というスタンスです。

子育て関連のアプリケーションが統一されていないことの改善や、ファミリーサポート依頼の電子化などについても、改めて要望していますので、引き続き注目いただければと思います。

わたしたち大人の役割とは

本議会では、子どもが多様な経験を重ねながら成長し、自立して生きていく力をつけるために重要となる、子育て・教育施策という大テーマについて取り上げました。

私はかねてから、子育て・教育において我々大人たちが果たすべき役割は、「大人になるのが楽しみ」な社会をつくることだと考えています。そのためには、放課後や家庭における子どもの過ごし方、生き方に対する社会的なサポートが必要不可欠です。そして、これらの施策は、まわりまわって、地域の活力や、地元企業の持続的な発展にもつながっていくと信じています。

刈谷市に住まう子どもたち、あるいはご縁があつてこれから刈谷市で生を授かり、生きていく子どもたち、そしてそれを見守り、共存していく市民にとって、希望のあふれるまちをつくるために、今後も子育て・教育施策の充実に取り組んで参ります。



高齢者配食サービスの 利便性が向上します！

これまでは週3回以下の利用しかできず、回数増を望む声が届いていました。令和7年10月から、一般食サポート事業として生まれ変わり、**週5回まで利用できるようになります。**

また、高齢化が加速する中で、将来にわたって高齢者福祉事業を持続できるよう、課税世帯には負担能力に応じたご負担をいただく制度へと見直しされます。詳細は、現利用者へのお知らせが発行されますので、確認をお願いします。



みんなの
声が、
カタチに

これまでに皆さんからいただいた要望をもとにした政策が、少しずつ実現しはじめています。

放課後子ども教室の 内容・回数がパワーアップ！

小学校で放課後に無料開催されている、放課後子ども教室。コロナを契機に一旦中止となり、再開後も参加人数や開催頻度が絞られていたため、放課後児童クラブに通う子どもから「参加したいのに参加できない…」との声を聞いていました。

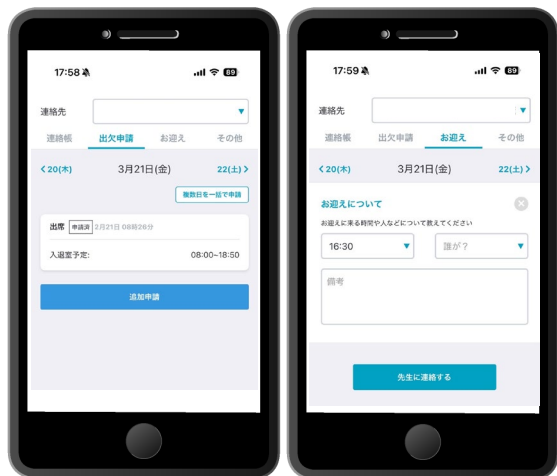
令和5年12月議会でサービス拡充を要望して以降、徐々に開催回数を増やしていただいています。今後も体験メニューの拡充などに取り組むとのこと。みなさま是非ご参加を！



放課後児童クラブでも アプリで出欠管理が可能に！

紙で向こう1ヵ月分の出欠予定を書いて提出し、予定変更時は電話で。放課後児童クラブは、このような運用でした。

保護者の利便性向上や支援員の業務効率化などの観点から、議会や予算要望で、ずっとICT化を求めてきました。そしてついに、令和7年度に皆さん悲願のアプリ管理が導入されることになりました！



伊藤よしえは、国民民主党の参議院議員・いそざき哲史さんを応援しています！

<https://isozakitetsuji.com/>

【お知らせ】

ORANGE PRESS は、年間4回発行します。日々の活動はSNSでも発信しています。是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X

